

ベンチャーハウスの卒業企業

都心部に「IT村」形成へ

事業発展へ交流積極化

名古屋市中心部に、新たな「IT村」が形成されようとしている。IT企業のインキュベーション施設、あいちベンチャーハウス（名古屋市中区新栄二ノ二四、電話052・242・6070）の卒業企業二十三社が新栄・伏見・大須地区に集中して活動拠点を構えているためだ。卒業企業はOB組織「昇龍会」を結成し、定期的な情報交換などを実施。同会の田中英武会長（エスエスティ社長）は「すでに会員間で仕事の融通や共同受注などを行っている。数年後には会員数は五十社規模となる見通しで、さまざま要望に応えられるIT集団を目指していきたい」としている。

（津田一孝）

同ハウスは〇三年一月二日意味から、事務局は同愛知県によって開設され、中部経営情報協会が運営。〇六年三月には、三年間の入居期間を経て十二社が卒業した。昇龍会はこの「一期生」によって設立、毎年卒業企業が輩出されるのに伴い、会員数は増加を続けている。

卒業後のフォローとい

「同じ施設で三年間を過ごした仲間として絆を

深めていきたい」（田中会長）として、二カ月に一度の懇親会のほかにも学会としてデンソーエレ

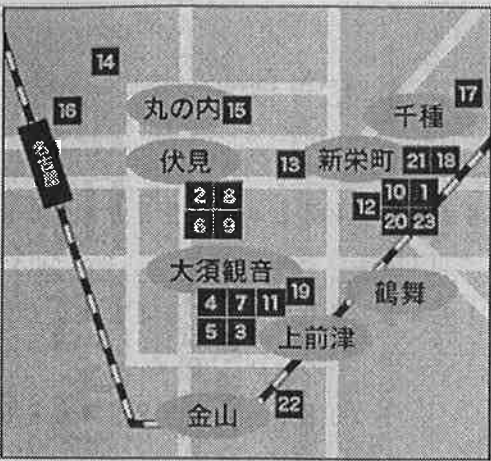
ツクスの電子工場とロボット工場を訪れた。懇親会で話される内容も卒業直後とは異なり、採用をどうするか、人づくりをどうするかなど、ビジネスに直結した情報交換が増え、協業化の動きも活発になってきた。会員

企業が五十社になり、一社平均の戦力を十人とすれば、五百人のIT集団が確立されることになる。とし、組織力の強化に取り組んでいく構え。中野インキュベーション・マネージャーも「東京のITベンチャーのよう

な派手な動きはないが、経営姿勢は堅実。ものづくりの盛んな中部は、機器を制御する組み込みソフトをはじめとして、IT企業への需要も多い。あいちモデル」と言われるようなITベンチャーの集まりに育っていけば」と、今後への期待を高めている。



昇龍会会長の田中英武氏（右）と事務局の中野喜之氏



卒業企業23社が名古屋市都心部に集中